

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370900235		
法人名	社会福祉法人つくし会		
事業所名	認知症高齢者グループホームつくしの里		
所在地	岩手県一関市滝沢寺字下2番地1		
自己評価作成日	平成24年10月15日	評価結果市町村受理日	平成25年1月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kihon=true&JigyouCd=0370900235-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(公財)いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成24年11月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・平成11年に開所した今年で13年になるグループホームです。併設施設(特養、高福センター、デイサービス、居宅等)と連携し、行事や学習会、避難訓練等を行っています。
 ・重度化はしていますが、些細な事でできることは行って頂き、支え合って生活しています。又、誕生会等を利用し、外出、野外行事等に力を入れています。
 ・センター方式を活用し、利用者本位の援助を行える様に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会福祉法人つくし会が、運営する「グループホームつくしの里」である。
 同一敷地内に、特別養護老人ホーム・デイサービス・在宅介護支援センター等があり、合同で避難訓練・各種研修会、勉強会等連携しながら、相互的に支援が図られている。里孫交流がすっかり定着しており、利用者が地域の中で安心して自分らしく暮らせるよう理念に沿ったホームを目指している。
 職員研修についても、特に力を入れており、応用力と向上心を持ちながら、一人ひとりの利用者を理解し、普通の日常生活が豊かに展開されるよう取り組みがなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基本に毎年努力目標、実施細目を掲げている。理念を目のつくところに掲示し、一人一人が意識し達成出来るよう取り組んでいる。又、年1回広報に載せている。	運営理念は、玄関・職員手洗い場に、掲示されている。更に毎年度末に職員間で努力目標・実施細目を掲げながら常に応用力を身につける取り組みをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前より回数は減っているが、近隣の小学校の行事に参加したり、特養との合同の行事(里孫交流、夏祭り、明生園祭り、合同防災訓練等)で地域との交流がある。	地域の行事参加は、機能の低下により参加人数も減り自然に回数も減ってきているが、地域の小学校の運動会や、学習発表会には見学に出かけている。特別養護老人ホームとの行事の里孫交流、夏祭りには多数参加して頂いている。法人の敷地内の清掃活動には20人位の地域の方々が季節ごとに来訪されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	視察見学、電話相談の他、ヘルパー養成校や職業訓練校、看護学校、高等学校等の実習を受け入れている。広報に「ワンポイント情報」を載せ、回覧している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	つくしの里の状況を理解して頂くと共に、参加メンバーより助言、意見を頂きサービスの向上に努めている。広報や、事業報告等の資料を渡している。	運営推進会議の委員からの提案により、洗濯物を干す場所を景観上から移動した例がある。今後は課題により、オブザーバー等の参加を求めながら、積極的な意見を頂く意向である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の参加の他、電話で相談にのってもらう事もある。特に今年は、利用者さんの生活保護申請について連絡を密にとっていた。介護相談員が毎年来所している。	今年度は特に利用者の生活保護の申請や、相談が多かったが、介護認定や更新の手続き等においても協力関係が築かれている。介護相談員は年1回来訪し、利用者、職員と対話の機会が持たれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っておらず、玄関の施錠は夜間のみで日中は自由に出入り出来るようになっている。ケアマネジメント委員会へ参加したり、学習会を行い、理解を深めている。	特別養護老人ホーム、デイサービス、グループホームから委員を選出し、年4回と随時開催され、ヒヤリハット、事故防止の取り組み等研修会が行われ、ホームでの報告会や、学習会を実施している。更にはスピーチロック資料をメインに利用者の精神面のケアに心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会を行ったり、研修会に参加し理解を深め、虐待防止の徹底に努めている。職員一人一人が言動に気を付け、お互いに声を掛け合いながらケアを行っている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 認知症高齢者グループホームつくしの里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用には至らなかったが今年1名について必要性を関係者と話し合った。又、学習会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は納得して頂けるように十分に説明を行い、納得して頂いた上で同意を得ている。料金改定時も説明会を開いて説明を行った。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートを実施し、家族からの意見を反映出来る様に努めている。以前、家族の要望でおこづかいの預かり証を作成した。又、ケアプランの要望を聞き、意見を取り入れたプランを作成している。	家族からの意見で、居室の洗面台にあるタオル交換の要望があり、こまめに交換するよう心がけている。また日記等を書かせてほしいということで、利用者は食べた物や職員の名前など書いてある。行事にも多く参加させて欲しいとの要望もあり、対応が難しい部分もあるが、工夫しながら出来る限り、取り組みをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議時等に意見や提案を聞く機会を設けている。洗濯機を増やしたり、必要の物品の購入等で反映されている。	職員からの要望で離床センサーマットを増やしたり、防水シーツの購入等の提案が反映されている。法人としての職員の人事異動もあるので早目にホームに来て、利用者と同様になるよう心がけている。外部評価の取り組みも職員全員で行い、一緒にまとめ作成した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	永年勤続表彰や、休暇制度の見直し、正社員への昇格等やりがいにつながる環境がある。職員は、研修等への参加や資格取得に積極的に取り組み、個々がスキルアップに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修に順番に参加するようにしている。今年度から経験や立場に応じた研修も行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会の定例会や両磐地区、県内施設との研修会、交流会に参加し、情報交換や交流を図っている。県内数か所の施設と広報をお互いに送り情報交換の一環としている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 認知症高齢者グループホームつくしの里

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	じっくり話を聞き、些細な事でも見逃さずケアに活かせる様にしている。又、見学に来て頂いて雰囲気を知ってもらい、本人の不安の軽減に繋がる様にしている。ショート利用から長期利用に移行する事も多い。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査時や来所時に家族の不安や要望等思いを聞き入れながら関係作りが出来る様に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係者と連携を図りながら本人、家族にとって本当に必要なサービスを見極め、必要時に応じて他のサービスも含めた対応を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の「こうありたい、こうしたい」という希望を取り入れながら、小さな事でも可能な限り行ってもらい共に生活する中で支え合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の「本人への思い」を大切に、共に支え合える関係を築けるよう努めている。小まめに情報提供し希望があれば一緒に通院する等柔軟な対応を心掛けている。家族合同のいもの子会を行った。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	民生委員や友人、知人等が面会に来てくれる事がある。かかりつけ医の継続に努めている。自宅へ時々帰ったり以前から利用している床屋さんに併設施設にて散髪してもらっている方もいる。	今年度からセンター方式を導入し、入居時の聞き取りや家族に様式を記入して頂いたり、面会の都度、情報を得ながら利用者の把握に努めている。ホームへの訪問者も多い方で週1回から2回、月1回の方、遠方の方ではお盆、お正月には来訪されている。自宅へ帰り墓参りや、知人のお見舞い、家の地鎮祭に行ったり等支援に努めている。調査訪問時には、(利用者の)友人が、おにぎりを持参し、お話をされていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係を把握し、食堂や車の座席は配慮して決めている。一緒に家事を行ったり行事参加を通して関わりを持つよう支援している。又、トラブルが起こる事もあるので十分に注意し必要時は速やかに対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次の生活の場を確保出来る様、他施設や病院と話し合いをしたり、退所された方のご家族や他施設からの問い合わせに応じたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、一人ひとりの思いを汲み取り、個別ケアに活かしている。利用者さんの言葉を聞き逃さずケアのヒントにする様に努めている。	普段の会話の中からの情報の細かい部分も大切にしながら気付いたことを「私の気持ち」(様式)を活用しながらケアに努めている。例えば「字を書きたい」「〇〇を食べたい」等あれば、その支援に努めている。会話の難しい方には表情を見て、アイコンタクトをとるよう心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査時、生活歴や生活習慣等を聞いている。又、ケアマネや事業所からの情報を職員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事、出来ない事を見極め、出来ることは継続出来る様支援している。健康状態や気持ちの変化を把握し変化がある場合は速やかに対応出来る様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の希望をもとに定期的なカンファレンス、モニタリングを行ない、本人にとって適切なサービスが提供出来る様努めている。日々話し合い、変化があれば都度検討し現状に即したプランになる様にしている。	利用者の担当を決めており、職員からの情報や、利用者と職員間との「なんでもノート」の記録から介護計画書に活かされている。3ヶ月ごとの見直しの他、毎月、モニタリング、カンファレンスを行いながら、利用者のケアに努めている。家族からの要望等は、電話や面会時に話し合いをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や家族との電話対応等も記録し職員間で共有している。ケアの実践についてはケアチェック表で振り返り、介護計画の見直しに活かしている。又、「なんでもノート」を活用し、気づきを共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のニーズや状況に応じて家族と一緒に通院や通院時の送迎、ショート利用等柔軟な対応に努めている。震災時には、プラス1名の受け入れをしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 認知症高齢者グループホームつくしの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動図書館の利用、里孫交流等、地域の小学校との交流、いこいの塔参り、ボランティアの受け入れ等を通し、地域と協働して利用者を支えられる様に取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの方が入所前からのかかりつけ医を継続している。状態により他の病院に受診する場合は家族に相談し、了解を得た上で受診している。必要時往診してもらっている方もいる。	利用者の健康状態により、整形外科・歯科・眼科には家族対応での受診や、送迎のみ(事業所対応)の方、職員対応等柔軟に対応している。特別養護老人ホームに協力医が週2回受診に来訪されるので、グループホームにも来て頂いている。職員対応の際の(家族宛)受診報告は、緊急の場合は電話で、変わらない時は郵送している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師が勤務し通院介助や処置を行っている。連絡を密にし、急変時等には指示を仰いでいる。又、特養の看護師にもアドバイスを受けたリ、処置をお願いしたり協力を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、面会に行き、家族や病院関係者と情報交換して本人の状態の把握に努め早期に退院出来る様になっている。退院時も病院関係者より情報、アドバイスをもとに退院後のケアプランを作成している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族アンケート等で重度化や終末期に関しての希望を把握している。本人の状態に合わせて話し合い、その時々合った対応が出来る様支援している。	看取りの指針は整備されている。契約時には、その説明はしていないが、利用者の状態を見極めながら、家族との話し合いで出来る事の対応の支援に努めている。看取りに関する勉強会は、特別養護老人ホームと一緒に取り組みしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	酸素や吸引器等を急変時に備え準備しており、看護師に点検等してもらっている。併設の特養にはAEDがある。AEDの講習や応急処置等の学習を施設内外で行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災想定訓練を行っている。毎年9月には消防署や地域の消防団と合同で行っている。大震災の後非常食を増やしたりライフラインが止まった想定避難訓練、炊き出し訓練(みどりの里と合同)を実施した。	災害対策の訓練は法人全体と、ホーム独自で訓練を実施している。備蓄については、震災前は特別養護老人ホームで準備していたが、震災後はホーム独自で保管、管理している。	夜の訓練の実施については、暗い時の景色、足場の違いに適切な判断と対応が出来るよう職員が身につけることが大切と思われる。地域の方々の協力が得られるよう、具体的な支援方法に期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である事を常に念頭に置き、プライドやプライバシーを損なわない言葉の掛け方や一人ひとりに合った対応をしている。	利用者との会話の中で、いろいろな事の質問に対しても、否定せず個々に工夫しながら、安心し、穏やかになれるような言葉かけに心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶飲み時や入浴希望等本人に自己決定してもらう機会を設けている。又、思いや希望を取り入れ行事を計画している。拒否がある場合も個々にあった対応で本人主体の支援を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の本人の体調やペースに合わせて本人の意思、希望に沿った支援を心掛けている。外へ出ていく利用者さんに対しても、散歩をしたり気分転換を図る等対応し出来るだけ希望に沿えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で出来る方には任せている。出来ない方にはいくつか用意し選択してもらったりその人らしい物を着て頂ける様にしている。又、身だしなみについても配慮し支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞き、提供したり、行事食で流しそうめんを行ったりしている。野菜の皮むき、切る、盛り付け等出来る事は行ってもらい、一緒に食事を楽しんでいる。	食事の献立は、職員で当番者を決めて、利用者から希望を聞き作成している。お正月にはお餅、お彼岸にはおはぎや、季節行事のみずき団子作り等と、出来る範囲内でお手伝いを頂いている。誕生会には外食をしたり、庭で食事したり、特別養護老人ホームでは2ヵ月に1度の「おたのしみ食事会」があり、工夫しながら支援に努めている。プランターに、トマト・レタス等を植え、収穫も楽しみの一つである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表により水分摂取量を把握し1日1000CC以上摂取出来る様取り組んでいる。個々の嗜好に合った物を提供し、場合により代替を用意している。3ヶ月に1度特養管理栄養士に献立のチェックをしてもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態、力に応じた働きかけをしたり個々にあった道具を用意しケアしている。口腔体操をプランに入れて取り組んでいる方もいる。又看護師にも口腔チェックを行ってもらっている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 認知症高齢者グループホームつくしの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を用いて個々の排泄パターンを把握し声掛けやタイミングに配慮しながら出来る限りトイレで排泄出来る様に取り組んでいる。又、ケア用品についても個々に都度検討している。	排泄パターンを把握しており、声がけのみの方、自立の方、機能低下によりリハビリになられた方、一人ひとり工夫しながら支援に努めている。居室にポータブルを置かれている利用者もいるので、職員は見守りに心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事水分、適度な運動等を基本に便秘予防に取り組んでいる。個々の排便の間隔を把握、共有し個別の対応を行なっている。必要に応じて下剤を使用するが下剤使用での失敗にも配慮し調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜以外の午後を入浴日としているが利用者の状態、希望、行事等により臨機応変に対応している。入浴時は個々のこだわりを理解し対応を統一する事によってゆったりと入浴して頂いている。	一日おきの入浴で午後に実施している。異性介助は、問題なく実施されている。利用者の中にはシャンプーの際に顔を濡らしたくない方がいるので、シャンプーハットとタオルを使用し、更にかけて湯を丁寧にするなど気をつけながら支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の希望やパターンを把握し、ゆっくり休んで頂ける様にしている。又、安眠の為昼間の過ごし方を見直したり寝具を検討したりしている。休息する必要がある人には声掛けし休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイル、一覧表を作成し副作用等理解し共有する様にしている。看護師、家族、主治医と連携し薬の種類、量等変更してもらう事もあり、現状に合った服薬をして頂く様にしている。飲み終わるまで見守りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に出来る事を行なって頂き張りのある生活を支援している。本、新聞、テレビ、CD、縫物等興味のある物を用意したり、個別に好む飲食物を提供したりしている。又散歩、外出、行事参加等で気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見等季節毎のドライブや誕生会を兼ねた外食ドライブに行ったり晴天時や希望時は散歩に行ったりしている。家族の協力で何名かの方が外出や外食をしている。	利用者全体での外出は、特別養護老人ホームのリフト車を借用している。家族からの希望で、2か月に1回位家族も一緒に外出している方もいる。戸外に出かけられるようケアプランに盛り込まれている。法人敷地内の散歩、畑に行ったり、里孫制度を利用し、その家族の稲刈りを見学に行くなど支援に努めている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 認知症高齢者グループホームつくしの里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は全員が預かっている。現在希望はないが、希望があれば持つ事も可能である。お金を持つことの大切さを職員が理解しており心配される方には預かっている事を説明し安心出来る様に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人から頻繁に電話がかかってくる方もいる。普段難しいと思われる方でも荷物が届いた時等にはサポートして本人の声を聞かせられるようにしている。又、年賀状を書ける方には支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下にはソファを置き、自由に休息出来る様工夫している。季節にあわせた温度管理を行なっている。食事準備が見えたり音が聞こえたりし生活感が感じられる環境になっている。又、花や庭に植えた野菜等で季節感を感じられるようにしている。	職員と一緒に作った作品、ボランティアとの(協働)作品、きり絵、貼り絵等が飾られてある。長い廊下には手すりが付けられ、ベンチ、ソファも置かれて、自由に過ごせるように配慮されている。食堂兼居間では、縫物をされている方、CDを聞かれている方など、それぞれの過ごし方をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人又は数人で過ごせるスペースを何箇所か設けている。座席については利用者さん同士の相性を考慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時の寝具の習慣を把握して、使い慣れた物を使用する事で快適に過ごせるようにしている。本人や家族と相談しながらなじみの物、必要な物等を持ち込んで頂き落ち着ける空間になる様支援している。	利用者の在宅時の様子に合わせ、希望により、畳部屋にしたり、ベットにしている。居室には、孫の写真や、書道等自分の作品を飾ったり、ぬいぐるみが置かれており、その人らしい心地良い雰囲気、作り出されている。木の立派な表札が入口に飾られ、大変印象的である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室に表示をしたり一人ひとりの状態に合わせ物の配置を変えたり安心して過ごせる様にしている。安全を考慮し何名かにセンサーマットを使用している。状態に応じて手摺りを増やす等工夫している。		